



あかまつ

七飯町立七重小学校
学校だより No.5
R3年8月31日

くじけそうな心を支える一言

七飯町立七重小学校長 本多宏至

ある小学生が書いた詩です。

「努力のつぼ」

角野 愛

「お母さん、どりよくのつぼの話、またして」

「うんいいよ、今度はなあに？」

「逆上がり」

「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。ずいぶん大きいね。」

と、言いながら、お母さんはいすを引いて、私の前に座りました。そして、もう何回もしてくれた努力のつぼをまた、ゆっくりと始めました。それは、こんな話です。

人が何かを始めようとか、今までできなかったことをやろうと思ったとき、神様から、努力のつぼをもらいます。そのつぼは、いろんな大きさがあって、人によって、ときには大きいのやら、小さいのやらいろいろあります。そして、そのつぼは、その人には見えないのです。でも、その人がつぼの中に一生懸命に「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか、「努力」があふれるとき、つぼの大きさが分かるというのです。だから、休まずにつぼの中に努力を入れていけば、いつか、必ずできるときがくるのです。

私は、この話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。そのときは、横ばしご（うんてい）の練習をしているときでした。それから、一輪車、鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬、何でも、がんばっているとき、お母さんに頼んで、この話をしてもらいます。

くじけそうになったとき、この話を聞いていると、心の中に大きなつぼが見えるような気がします。そして、私の「努力」がもうすこしであふれるように見えるのです。だから、またがんばる気持ちになれます。お母さんの言うとおり、今度の逆上がりのつぼは、ずいぶん大きいみたいです。逆上がりを始めたら、もう2回もこの話をしてもらいました。

でも、こんどこそ、あと少しで、あふれそうな気がします。だから、明日からまたがんばろうと思います。お母さんは「つぼが大きいと、とてもたいへんだけど、中身がいっぱいあるから、あなたのためになるのよ」と言ってくれるけど、今度、神様からもらうときには、もう少し小さなつぼがいいなあと思います。

（子どもの作文珠玉集No.1 作文 25 選「子どもを変えた親の一言」（明治図書）より引用）

さて、この夏は世界中からアスリートが集まり、“2020 東京オリンピック・パラリンピック”が開催されています。新型コロナウイルス感染症の終息はなかなか見込めませんが、このような状況下ではありますが、トップアスリートの皆さんは、才能だけでなく、例外なく努力を惜しむことのない人たちです。しかし、努力はすぐに成果として現れません。ある時点でプラトーと言われる「努力しても成果が現れない時期」が訪れるのです。このプラトーの時期は、努力が目に見えない形で蓄積され、飽和状態になったその時、器から水がこぼれるように急激な伸びを見せるのです。一度壁を乗り越えた経験は、自信となり他の場面にも波及していきます。

もうお分かりのことかと思いますが、プラトーの時期に、努力を放棄してしまう子どもも少なくないのではと感じています。くじけそうな心を支えることができるのは、親や教師からの励ましの一言ではないかと思えます。

8月16日（月）に2学期の始業式を行うことができました。保護者・地域の皆様のお力添えのおかげと思っています。感謝の念でいっぱいです。わかる・できる・つかえる力を身に付けるとともに、考えるおもしろさ、人と共にいる居心地のよさを感じ、学校が楽しいと感じる「七小の子」であり続けるため、今後ともよろしく願いいたします。